

ジンコソーラー：第3四半期は重要な収益の転換点になると期待される

11月19日、ジンコソーラー（NYSE: JKS）は2019年9月30日までの会計検査されぬ第3四半期の決算を発表した。財務決算によると、同社は第3四半期の太陽電池モジュールの出荷量は3326MWと、前年同期に比べて12.6%増加した。総売上高は74.8億元（10億5千万ドルに相当）で、前期に比べて8.2%増、前年同期に比べて11.8%伸びた。粗利率は21.3%であり、2019年第2四半期の粗利率は16.5%で、2018年第3四半期の粗利率は14.9%であった。営業利益は6.388億元で、前期に比べて145.4%増、前年同期に比べて237.1%伸びた。

同社に対して、第3四半期は重要な転換点で、第四半期と来年の全体の収益水準は持続的に向上する。もっと大切なのは、2019年末と2020年末に、ジンコソーラーは単結晶ウエハの生産能力は11.5GWと18.0GWを実現し、PERC電池セル（N型を含め）の生産能力を10.6GW、自社生産の太陽電池モジュールの生産能力が16.0~22.0GWに達する予定です。高品質、低コストの単結晶ウエハの生産能力の向上により、直一体化の製造比率を著しく向上させ、ジンコソーラーにコストリードと安定した毛利率を維持させる。第3四半期はジンコソーラーの重要な転換点で、第四半期と2020年の会社全体の収益水準は持続的に向上する。

高効率製品の需要が活発で、長期的な業績成長を牽引する

グリッドパリティ、太陽光発電とエネルギー貯蔵を組み合わせる新しいビジネスモデルの推進の下で、2020年のグローバル太陽光発電市場20%成長すると予想されている。その背景には、ジンコソーラーは35%の高成長を続け、2020年には太陽電池モジュールの出荷量が18-20GWに達すると見込まれる。2020年のオーダーは見通しが高く、2019年の年末までに40%を超え、さらに50%に近い上質注文がロックされる見通す。世界市場の持続的な景気を背景にして、また手持ちの注文が十分で、価格は理想的で、納品能力の高い弾力性があり、会社の収益力は著しく増加する見込まれている。

強く運営実力、将来の技術交付を効果的に実行する

単結晶と多結晶の切り替えることや楽山のプロジェクトから、ジンコソーラーの独特の実行力が見られる。業界の技術と市場の動向を早期に察知し、最も効果的かつ最も融通性がある環境の中で異なる段階の戦略計画を実行し、結果を導きの上を実行し、納品するまでに業界トップの技術資格と良質の生産量を保証する。モジュール出荷の製品構成から言えば、2020年の高効率単結晶製品の出荷比は100%近くになる。これはジンコソーラーが効率的な単結晶一体化産業チェーンの完全な転換を完了したことを示している。このうち、Swan、Tiger、およびN型をはじめとする新製品は、2020年の出荷比が40%を超える。楽山第一期が全面的にスタートし、楽山第二期が生産開始される、大体に25GWの高効率単結晶産業園の雛形が見られる。

強化された一体化能力は新製品の発売を加速させる

ジンコソーラーが絶えず強化している一体化能力はコスト構造の最適化に加えて、更新した革新製品を快速に量産を実現させ、品質、コスト、時間において製品の競争力を保証する。将来、会社の製品の差異化の機会はい以前のいつよりも大きいである。高エネルギー密度の製品、透明なバックシートの両面モジュールにしても、TRと9本バスバーのTigerモジュールにしても、ジンコソーラーは絶えずにその全世界の取引先のためにもっと良い製品と解決案を組み合わせ、肝心の需要を満たして、効率、電力、性能、減衰、信頼性それともその他の属性を含んでいる。業界の最も全面的な技術の組み合わせ

を通して、一体化の生産と納品能力を補佐して、大規模、高性能のモジュール規模の優位性などを通じて、会社にもっと良く市場の機会を捉えることができる。

グローバル化の能力が顕著になり、グローバル生産能力の優位性がますます明らかになった

世界的に 4 GW の海外（電池）技術と生産能力の配置を持ち、トップの執行と供給を提供し、高利益市場の高シェアを実現する。常に市場志向の生産モデルを持っており、長年にわたって蓄積された国際化生産と運営経験はジンコソーラーの現地化アフターサービス、サプライチェーン管理及び差別化の製品戦略をリードしている。

